

献辞

田中貞夫先生が、2012年3月末をもって定年退職をされ、専修大学を去ることとなりました。すでに専修大学は、先生に名誉教授の称号をお贈りし、その功績をたたえています。ここでは、田中先生の経歴と、研究、教育、大学運営への貢献をご紹介します、先生をお送りする言葉に代えたいと思います。

田中貞夫先生は、1942年2月に生まれ、神奈川県立平塚江南高校を卒業された1960年に横浜国立大学工学部応用化学科に入学し、1964年に卒業されます。その後、東京大学大学院理学系研究科化学専攻修士課程に進学し、1966年3月に修了され、同博士課程に進まれました。博士課程の単位修得後、1972年に東京大学理学系研究科の課程博士を授与されました。1969年からは北海道大学工学部原子工学科の助手に採用され、1980年3月まで務められました。その間、1975年から2年間、アメリカのバーモント州立大学に客員研究員（ポストドクトラルフェロシッ）となり、水素エネルギーの研究に従事されました。そして、その後、1980年4月に専修大学経済学部助教授として入職され、1986年に教授に昇格されています。

先生は、日本化学会、触媒学会、日本原子力学会、日本金属学会に所属され、1960年代後半から精力的に研究を進められました。とくに電荷移動型錯体 (Electron-Donor Acceptor Complexes) の触媒作用や反応性スパッタリング (Reactive Sputtering) による金属の製膜、また金属間化合物の水素吸収 (Hydrogen Absorption) と水素貯蔵 (Hydrogen Storage) に焦点をあわせた研究に集中され、海外の学会誌や国際ジャーナルにその成果を公表されたのでした。

まず、1970年には、英国化学会のジャーナル *Transactions of the Faraday Society* に2つの共著論文 Adsorption of hydrogen on the stoichiometric electron donor-acceptor complexes with sodium と Hydrogen of butadiene over anthracene-sodium electron donor-acceptor complex を発表されました。また、1970年代半ばから後半にかけては、*Journal of Catalysis* に2つの共著論文 The EPR measurement of O_2^- species in silver(II) oxide (AgO) related to the catalysis と Low-temperature absorption equilibrium and chemisorption in the $LaNi_5$ (Activated)/ H_2 system が掲載されています。さらに、1970年代後半から1980年代にかけては、*Journal of Less-Common Metals* に2つの共著論文 Thermody-

namics of the solution of hydrogen in LaNi_5 at small hydrogen contents と The slow step for hydrogen absorption (desorption) by activated LaNi_5 を、また 1 つの単著論文 Hysteresis of hydrogen absorption (and desorption) isotherms in the α - β two-phase region of LaNi_5 を発表されています。

専修大学に入職された1980年以降は、エネルギー問題にも関心を持たれ、論文を発表されています。さらに、1989年から翌年にかけてと2004年から翌年にかけての2回にわたって国内研究員として研究に専念されました。しかしながら、人文・社会科学の総合大学である専修大学では、田中先生が専門分野での研究をおこなうには十分な条件が整っていなかったことは明らかですし、先生の研究活動にとっての小さくない制約となり、ご苦労されたであろうと思われます。

そして、先生は教育においては、本学の教養科目における「物質の科学」、「自然科学論・科学史」や「化学」、「科学論・科学史」を主要担当科目とされ、また、「教養ゼミナール（先端技術と技術立国・日本）」の指導にあたりました。先生は、研究と教育において熱心に取り組まれると同時に、専修大学の教学・運営の仕事に就かれました。学生部委員（4年）、図書館委員会委員（8年）、教員資格審査委員会委員（2年）、教養教務委員会委員（2年）を歴任されました。また、2007年以降は、購買会連絡協議会委員を5年務められ、うち3年間は同委員長として尽力されたのです。

また、教養科目の担当をされていましたが、経済学部の教授会でも、先生が必要と判断されたときには発言をされていました。購買会連絡協議会委員やその委員長を長く務められた経験から、昨年は、購買会やその書籍を抜本的に拡充すべきであり、大学としての取り組みを強めるように求める発言をされていました。

先生は、このように専修大学に入職されてから32年のあいだ、研究、教育と大学運営のすべての分野でお忙しく仕事をされました。

田中先生、今後とも健康に留意されて、ご自愛下さい。先生の古稀とご定年での退職をお祝いし、私の献辞とさせていただきます。

2012年3月

専修大学経済学部長 浅見 和彦